

永平寺別院で妙心寺派と交流

曹洞宗



東京・西麻布の大本山 永平寺別院長谷寺（東京 別院）で10月27～29日、

福山諦法貫首の親修による「高祖大師御征忌・報恩法脈会」が営まれた。

最終日には、臨済宗妙心寺派の僧侶5人が随喜した。写真。戒弟は64人、宗侶の随喜は181人。

宗門は現在、妙心寺派と学術（学術発表）、実践（僧堂視察）、布教（布教師交流）の3部門で交流を深めている。実

践部門の交流は2017年から互いの僧堂を見学し始めており、昨年は曹洞宗側が京都の円福僧堂で坐禅を体験した。

別院を訪れた5人は同派教学部の教化センターで、曹洞宗側は総合研究所センター（総研）の研究員らが応対。個人的な参禅や交流はこれまでに

もあったが、同派僧侶が公式の立場で曹洞宗の僧堂を視察し、交流するの

は初めてとみられる。本多道隆・同教学研究委員会委員長は「臨済宗では見られないような授戒に立ち会わせていただき大変ありがたい。威儀即仏法の一端に肌で触れることができた。儀式の形式や流れは基本的に同じだが、一つ一つの作法が違った。統一感があった。美しかった。ゆくゆくは様々な立場の人、若い人が参加できるように交流を続けていきたい」と語る。

述べた。小杉瑞穂・総研主任研究員は「同じような儀式が少しずつ違うように行われていることを目の当たりにし、違いの中に儀式の本当の意味や意義を感じた」と語り、今後の交流にも期待を寄せた。

関根隆紀・総研事務局

長は「他宗を知ること

で、自らのことを再確認

することが大事。互いに

幅が広がる交流だと感じ

た」と語った。